

ミネラルウォーター「仁多水」

一千四百本を寄贈

高尾にある(株)奥出雲シンオオスイ(石山悦子代表取締役)が、ミネラルウォーター「仁多水」の五百mlペットボトル二千四百本を町に寄贈することになり、四月二十二日、贈呈式が仁多庁舎で行われました。

石山和敏会長から目録を手渡された勝田副町長は「非常時だけでなく、来町者へのおもてなしなどにも使っていきたい」とお礼を述べました。

国際交流の懸け橋

ハンガリーへそろばん寄贈

横田の松屋算盤店(足立充店主)が海外でのそろばん普及に役立ててほしいと奥出雲町国際交流協会(藤原弘道会長)に新品のそろばん約千挺を寄付されました。

これを受けて、同協会から「考えるSZOROBAN日本普及会」(大阪府)を通じて、そろばん教育が普及しているハンガリーへ二百五十挺を寄贈することが決定し、四月二十一日、役場横田庁舎で調印式が行われました。

式には、足立店主、藤原会長、

寄贈された「仁多水」は、八月に開催される全国スポーツ少年団ホッケー交流大会で活用される予定です。



▲勝田副町長(右)に目録を手渡す石山会長(左)

日本普及会の石井康雄幹事が安部教育長の立会いのもと目録に調印。今年から五年間、毎年五十挺ずつハンガリーへ寄贈されます。



▲調印式の様子((左から)石井幹事、藤原会長、足立店主)

平成二十六年年度

自治会長会を開催

四月十三日、カルチャープラザ仁多において平成二十六年年度自治会長会が開催され、全自治会長と町執行部の約百五十人が出席しました。

はじめに、永年にわたり自治会長として地域の振興と発展にご尽力いただいた石原吉徳さん(大谷)に感謝状が贈られました。

また、今年度の自治会長を代表して、布勢地区佐白町自治会長に委嘱書が交付されました。

会議では、町執行部から今年度の主要施策、予算、事業日程などの説明が行われました。

(今年度の自治会長名簿は、広報四月号に掲載しています。)



▲感謝状を受け取る石原さん

自治会長会連合会役員

各地区自治会長会 会長が決定

四月三十日、仁多庁舎で第一回自治会長会連合会が開催されました。

会議では、今年度の事業計画、ふるさとづくり交付金、町政座談会などについて話し合われました。連合会の構成は左記のとおりです。

(敬称略)

【連合会長】

石原 肇(布勢地区)

【連合会副会長】

吉川 忠良(馬木地区)

【地区会長】

西村 保夫(三成地区)
 勝部 博史(亀嵩地区)
 西村 昇(阿井地区)
 大坂 茂(三沢地区)
 堀江 修(鳥上地区)
 岩佐 俊秀(横田地区)
 恩田 公夫(八川地区)

奥出雲町商工会

みなり遊園地へ木製ベンチを寄贈

奥出雲町商工会から町へ木製ベンチが寄贈され、四月二十六日、みなり遊園地で寄贈式がありました。

このベンチは、チェンソーアート作家により一本の丸太から作成されたもので、クマの親子の姿がかわいらしく表現されています。

みなり遊園地には、この他にも商工会から寄贈されたチェンソーアート作品が四体あり、訪れる子どもたちに親しまれています。



▲寄贈された木製ベンチ。クマの親子のかわいらしい姿が、チェンソーだけで見事に表現されています。

▶木製ベンチに座ってにっこり!

観光シーズンの幕開け

鬼の舌震で川開き安全祈願祭

名勝天然記念物「鬼の舌震」の川開き安全祈願祭が四月二十三日、「舌震の恋」吊橋前で、地元団体や観光文化協会などの関係者約三十人がシーズン中の安全と観光振興を祈願しました。

観光文化協会会長代理の勝田副町長から「自然に囲まれた鬼の舌震を始め町内の観光施設と連携を図りながら、奥出雲町を満喫できる企画を提案していきたい」とあいさつがありました。



▲奥出雲町観光大使の「すさのおくん」と「いなたひめちゃん」も一緒に安全を祈願しました

神事の後には、玉日女橋付近の川辺で勝田副町長と三成幼稚園の園児五人が、ヤマメ六十匹を放流。放たれたヤマメが川の中を元気よく泳ぎだすと、園児たちは歓声をあげて喜んでいました。

当日は多くの観光客が訪れていて、新名所の吊橋からの眺めを楽しむ姿で早速賑わっていました。



▶ヤマメを放流する三成幼稚園の園児